

第 1 号議案

2022 年度 事業報告

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人フードバンクさが

2022 年度事業の成果と課題

事務局体制は専従職員 1 名の継続雇用に努め、更に休眠預金を活用し、スタッフ 3 名、パート 2 名を雇用し、寄贈受入の拡大と福祉的な窓口との連携に努めました。

3 年にも及ぶ長い間、猛威を振るったコロナウィルスの感染拡大はようやく終息の兆しを迎え、これまでのやり方ではできなくなってしまったことが多々ある中、新しい生活様式の中で、今できることは何かということを念頭に置いて活動した年でした。

そして、コロナ禍において「食」の支援の在り方を考え続けた 1 年でもありました。

「食」で人と人をつなぎ、誰もが住み続けられるまちづくりを目指すためには、社会の中で今、起きていることの共有とお互いを認め合うことから始まると考え、自助で解決できないことを地域や仲間、みんなで助け合える社会づくりこそがわたしたちの課題であり、フードバンクが担える役割は何なのかの議論が必要です。

また、私たちが大切にしている、食への感謝の気持ちや食の大切さを共に育んでいく事や、更には、地域の中で連携や協力することで、活動の拡がりをつくっていくことが今後の重要な課題です。

1. フードバンク活動の推移

	2019 年度 実績	2020 年度 実績	2021 年度 実績	2022 年度 計画	2022 年度 実績
事業費	1,697,404 円	5,384,722 円	7,856,225 円	13,971,000 円	14,283,446 円
食品取扱量 (入庫)	5561 kg	22871 kg	44758 kg	50,000kg	48,373 kg
寄贈企業・団体	17 団体	69 団体	124 団体	130 団体	141 団体
食品取扱量 (出庫)	3484 kg	16265 kg	45320 kg	50,000kg	50,050 kg
食品提供団体数	21 団体	75 団体	123 団体	150 団体	118 団体
最終受益者数	—	—	33,826 人	35,000 人	81,643 人
重量あたりの 金額換算	約 333 万円	約 1,372 万 円	約 2,685 万 円	3,000 万円	約 2,902 万 円

※重量あたりの金額換算は 1 キロあたり 600 円の評価額を利用

2 会員・寄附の拡大

事業が安定して継続できるように会員・寄附の拡大に取り組めました。

①会員/会費

	正会員 (学生会員)	団体正会員	賛助会員	特別賛助団体	賛助団体
2019 年度 実績	55(1)名 163,000 円	0 団体 0 円	19 口 38,000 円	0 団体 0 円	15 口 150,000 円
2020 年度 実績	68(1)名 202,000 円	0 団体 0 円	19 口 38,000 円	1 団体 100,000 円	30 口 300,000 円
2021 年度 実績	56 名(1) 166,000 円	0 0	57 口 114,000 円	1 団体 100,000 円	35 口 350,000 円
2022 年度 計画	100(10)名 310,000 円	20 団体 200,000 円	50 口 100,000 円	3 団体 300,000 円	30 口 300,000 円
2022 年度 実績	61(0)名 183,000 円	2 団体 20,000 円	35 口 70,000 円	3 団体 300,000 円	34 口 340,000 円

②寄附

	企業・団体	個人・その他	ふるさと納税	クラウドファンディング
2022 年度 計画	2,000,000 円	1,000,000 円	2,500,000 円	3,000,000 円
2022 年度 実績	2,237,380 円	532,340 円	1,230,000 円	2,255,000 円

* 上記寄付金額の内ふるさと納税やクラウドファンディングは当該年度に募った金額で、実際の入金額と時期が異なるため決算額とは差異があります。

②-1 労働者福祉協議会（企業団体）

労働者福祉協議会では全国 27 県でフードバンク支援に取り組まれており佐賀県では 2020 年より弊会に継続して年 200 万円のご寄付をいただいている。当初より団体運営の管理的経費としての使用を承認いただいております、団体継続の貴重な柱となっている。

②-2 寄附金付き自販機（個人・その他）

	売上本数	売上金額(円)	寄付金額(円)
4 月	87	12,120	2,610
5 月	108	14,500	3,240
6 月	173	24,050	5,190
7 月	167	23,730	5,010
8 月	478	65,940	14,340
9 月	0	0	0
10 月	154	20,760	4,620
11 月	204	29,210	6,120
12 月	228	31,630	6,840
1 月	133	18,670	3,990
2 月	113	15,010	3,390
3 月	84	11,120	2,520
合計	1,929	266,740	57,870

②-3 ふるさと納税

「佐賀県 NPO 支援×フードバンクさが」として3年目のとりくみは、活動に賛同していただいた企業様の商品を返礼品として取り扱いを開始しました。目標額 400 万円に対し 123 万円にとどまりました。手数料の令和 5 年度より県の手数料が 10%→15%となっており、競争も激化しています。更なる返礼の開拓と広報の充実が必要です。

②-4 クラウドファンディング（READYFOR）

設立以来の懸案事項でもあった法人の運営資金の獲得のため、クラウドファンディングに挑戦しました。序盤は苦戦しましたが最終的には目標額を上回る寄付を獲得することが出来ました。目標額 200 万円に対し、225 万円のご寄付をいただきました。

②-5 ろうきん NPO サポートーズ（個人・その他）

ろうきんの「NPO 自動寄附システム」は福祉・環境・文化などさまざまな分野でボランティア活動を展開している NPO と市民・勤労者とをつなぐ新しい社会貢献のかたちです。昨年度からこのしくみを活用しており、毎月 100 円からのご寄付が積み重なり今年度は計 288,100 円のご寄付をいただきました。

3 補助金・助成金等の活用

	助成事業名	助成金額 (円)	助成元
1	食と農で人と人をつなぐ、実践型食育・農業事業	530,000	エフピコ環境基金
2	お弁当プロジェクト	3,350,000	佐賀県ふるさと納税 GCF 交付金
3	農林水産省フードバンク支援緊急対策事業 (第1期～第3期)	587,418	農林水産省(公益財団法人 流通経済研究所)
4	地域に根差した食支援の継続をめざすフード ドライブ事業	150,000	佐賀県共同募金会
5	フードパントリー(食品倉庫)開設支援事業	300,000	九州ろうきん「NPO助成」
6	コロナに負けない、子どもの学びと家族の応 援事業	3,000,000	厚生労働省(一般社団法人全 国フードバンク推進協議会)
7	生活困窮者等自立支援用物資の提供に係る整 備事業	500,000	佐賀市自立支援センター(生 活困窮者支援体制を構築する ためのプラットフォーム整備 事業補助金)
8	クリスマスケーキを贈るプロジェクト	100,000	九電ユニオン 九電ネクスト(ケーキ現物)
9	コロナと困窮を越え、「食」で人と人をつな ぐフードバンク事業	6,000,000	JANPIA(休眠預金事業) 一般社団法人全国フードバン ク推進協議会
10	コロナに負けない、子どもと家族の応援事業	500,000	厚生労働省(一般社団法人全 国フードバンク推進協議会)
11	100世帯のひとり親世帯の子どもたちにク リスマスケーキを贈るプロジェクト	200,000	ろうふくエール基金

(1) 食と農で人と人をつなぐ、実践型食育・農業事業

助成元：エフピコ環境基金

事業期間：2022年4月～2023年3月

食育と農業を組み合わせ、提供食品(野菜)の確保と食品ロス削減啓発、更に地域コミュニティ活性化をめざす。

富士町に休耕の畑を貸していただき、「合同会社つよし君のお野菜畑」の水田強氏の指導の下、さつま芋、ピーナッツを栽培。その収穫物を食支援団体(子ども食堂など)に提供した。

4月より打ち合わせ

5月畑作りや種まき、定植

6 月除草と防獣用電気柵設置（佐賀ブルーナーズとコラボ）
7 月つる返し、防草マルチ剥ぎ、除草
8 月トウモロコシ収穫、除草、つる返し、ブルーベリー収穫補助
9 月芋試し堀り、ピーナッツ除草
10 月収穫祭
11 月こども食堂や学校給食に提供
1 月こども食堂に佐賀ブルーナーズと訪問
2 月ジャガイモ栽培開始

（２）お弁当プロジェクト

寄付金：佐賀県ふるさと納税 GCF 交付金
事業期間：2022 年 4 月～2023 年 3 月

給食の無い長期休暇に給食の代わりとなるよう、栄養面や衛生面にも配慮したお弁当をお届けし、子どもたち（小中学生）が安心して食事をとれるよう心がける。そして地域の支援団体と協力し、各家庭につながるのある方々とともに取り組むことで、地域の「みまもり」にもつなげていく。

夏休み期間は「ワタミの宅食」に依頼し 1,660 食を提供。

冬休みは同じく「ワタミの宅食」と地元の飲食店とで 1,200 食を提供。

提供地区は佐賀市地区、神崎市地区、鳥栖市 & 基山町地区、小城市地区

（３）フードバンク活動団体の食品受入能力向上事業

助成元：農林水産省フードバンク支援緊急対策事業（第 1 期～第 3 期）
事業期間：2021 年 12 月～2022 年 10 月

食品ロス削減を図りながら、フードバンクの食品の受け入れと提供拡大に向けた取り組みを行う。

食品の受入れ・提供の拡大に必要となる一時保管用倉庫、運搬用車両、食品の輸配送費を定額の範囲内で支援を受けた。

（４）地域に根差した食支援の継続をめざすフードドライブ事業

助成元：佐賀県共同募金会
実施期間：2022 年 4 月～2023 年 3 月

より効果的な食品ロス削減から食資源の地域循環へとつなげる流れを構築し、周知、啓発、そして行動に結び付けることを目的とした。啓発・アピールのツール（パネル・パンフレット・のぼり旗）をアップデートすることで、フードバンク並びにフードドライブ活動への理解と訴求力を強化した。

(5) フードパントリー（食品倉庫）開設支援事業

助成元：九州ろうきん「NPO助成」

実施期間：2022 年 4 月～2023 年 3 月（3 年継続事業 1 年目）

佐賀県内に食品支援の拠点となるフードパントリー（食品倉庫）の開設を支援した。本年はみやき町のひとり親家庭支援団体と共に試験期間を設け、助成金を活用し設備並びに食品とその運搬を行い、その地域で実際に活動した。

食品は基本的にフードバンクさがから提供するが、加えて不足分を補うための食品、開設に必要な資材（棚や台車等）、運搬用の車両レンタル料、コーディネートする人員の人件費と交通費の支払いに助成金を活用した。2 年目以降も継続して支援を続けるが新たな地域にも設立支援を行っていく。

(6) (10) コロナに負けない、子どもの学びと家族の応援事業及びコロナに負けない、子どもと家族の応援事業

助成元：厚生労働省（一般社団法人全国フードバンク推進協議会）

事業期間：2022 年 7 月～9 月（12 月までに変更となった。）

2023 年 3 月

ひとり親世帯への食品と生活必需品の支援及び支援・相談窓口の情報提供。加えて、こども食堂等に参加しづらくなったひとり親世帯の中高生に対する学用品の提供を行い、家庭での負荷を減らし、教育機会の喪失を防ぐことを目的とする。

①佐賀県ひとり親家庭サポートセンターの「ひとり親家庭の学習支援ボランティア事業」を通じて、県内 12 市町に食品及び学用品を 100 セット提供。

②佐賀学園で学生を中心に始まっている食支援の取り組み（月 1 回の食事提供と月 2 回の食品提供）を通じ、食品と学用品セットを 50 セット提供。

③フードバンクさがと合意書を交わしている、ひとり親世帯支援団体を通じて 100 世帯に食品と日用品セットを提供。

2023 年 3 月にも同様の助成事業をいただいたが、その際には食品のみで 145 セットを作成。生活困窮者等への提供に際しスクールソーシャルワーカー、みやき社協と連携して食品提供を行った。

今回は助成金額が比較的小規模であることと、佐賀市に支援が集中しすぎではないかとの考えから、佐賀市外のひとり親家庭を対象とした。

(7) 生活困窮者等自立支援用物資の提供に係る整備事業

助成元：厚生労働省（一般社団法人全国フードバンク推進協議会）

佐賀市自立支援センター（生活困窮者支援体制を構築するためのプラットフォーム整備事業補助金）

事業期間：2022 年 10 月～2023 年 2 月

生活困窮者等への提供に際し自立支援センターと連携し、寄贈いただいた食品や日用品を提供していく。また、フードバンクに対する相談内容に関しても、個人情報の保護等の観点からもセキュリティを整備すべく、PC や鍵付キャビネット等を購入した。また、安全に食品管理を行うための設備（保冷库等）の拡充も行った。

①佐賀市生活自立支援センターへの食品・日用品の提供実績

提供回数：計 40 回

対象数：計 670 世帯（1,470 人分）

提供量：1,661kg

②相談実績

来訪相談件数：12 回（10 人）

電話相談：40 回

（8）（11）クリスマスケーキを贈るプロジェクトならびに 100 世帯のひとり親世帯の子どもたちにクリスマスケーキを贈るプロジェクト

寄付金：九電ユニオン、ろうふくエール基金、九電ネクスト

事業期間：2022 年 12 月

困窮世帯にクリスマスケーキを贈るプロジェクト。

当初の予定は九電ユニオン寄付分の 30 個程度を予定していたが、ろうふくエール基金を受けられることになったため計 100 個に変更。さらに九電ネクストより追加の支援として 80 個をいただき合計で 180 個となった。

対象世帯の選定及び提供にあたってはひとり親・ステップファミリーの支援を行っている「スマイルキッズ」を通じて行った。

（9）コロナと困窮を越え、「食」で人と人をつなぐフードバンク事業

助成元：一般社団法人全国フードバンク推進協議会・JANPIA（休眠預金事業）

事業期間：2022 年 6 月～2023 年 2 月

コロナ禍で困りごとを抱える方への支援が行き届くよう、関係団体（行政の福祉の窓口、社協等）との連携をすすめた。

企業・団体の寄贈を促進し、量の増加のみならず、肉・野菜等といった多様な寄贈をいただけるよう提案とお願いをしていく。

親子共に身動きが取れず支援の道から外れがちな乳児のいる世帯やコロナで一時的に困窮に陥ってしまう世帯に早期の支援を行うことで深刻な困窮にならぬよう、関係機関からの要望に柔軟に対応することで効果的な支援体制を構築した。

4 食品寄贈の受取

（1）食品企業や団体などの寄贈団体は 2021 年度の 124 団体から 141 団体へ増加していま

す。寄贈団体との合意書の締結も 14 団体増え、68 団体になりました。

寄贈量は 2022 年春以降の社会情勢の影響か前年度に比べ 3.6 トン増に終わりました。

県内企業からの寄贈とフードドライブによる寄贈は大きく増加しました。一方で行政からの寄贈と生産者からの寄贈が減少しました。

※食品寄贈量約 48.3 トン（昨年度約 45.0 トン） 重量あたりの金額換算約 2900 万円

- （２）引き続き食品ロス削減と身近な社会貢献活動としてフードドライブ活動を働きかけ、企業、小売店、JA さが女性部、大学、高校、宗教団体等が取り組み、フードドライブ食品の寄贈量も大きく増えました。

実施団体 39 団体 寄贈数量約 7,728 kg

（昨年度 23 団体 寄贈数量約 2,630 kg）

※小売店等でのフードドライブ実施場所

常設 コープさが新栄店・ゆめマートさが店

定期開催 イオン九州グループ・アバンセ・マルキョウ大財店

- （３）昨年に続き協力団体のコープさが生活協同組合と連携し、配達のシステムを活用した年 2 回のフードドライブと新栄店での常設のフードドライブを実施し、食品や日用雑貨品の寄贈を受けました。

※新栄店フードドライブ 約 499 kg

配達のシステムを活用したフードドライブ 約 1507 kg

5 団体への食品提供

- （１）県内各地で新たに子ども食堂や子どもの居場所等の立ち上げがあり、合意書を交わした団体数は 26 団体増え、125 団体になりました。しかし食品の寄贈量はそれほど増えていないため提供量もほぼ横ばいです。

※食品提供量約 50.0 トン（昨年度約 45.3 トン） 重量あたりの金額換算 3003 万円

- （２）取扱量と提供団体の増加に伴い、各団体への適正な配分課題となっています。企業寄贈の食品は食品情報を発信し、多くの団体が活用できるように配慮しました。

- （３）個人的な支援については行わず、関係機関と連携し団体を窓口として提供するしくみを継続しました。しかし相談件数は増加傾向にあり、協力団体へつなぎました。

- （４）食支援団体を窓口として食品の提供を行っているため、最終的に食品の活用について調査を行いました。

2022 年度受益者数 81,643 人 （2021 年度受益者数 33,826 人）

6 運営体制

(1) 専従職員の継続雇用に努めました。

(2) 年度当初は専従職員の他、3名のボランティアスタッフを配置し事務局体制を整えました。

今年度は全国フードバンク推進協議会の休眠預金を活用しながらパート2名を含む5名について有償化することはできましたが、3月からは元に戻っています。実際どのくらいの費用が求められているのかを示すための実験的な取り組みとなりました。元に戻り、これからもボランティアとして、本来必要な人件費として発生する費用を抑えています。

※次年度予算書には320万円をボランティア評価費用として計上

(3) 運営委員会の立ち上げができず、2022年度も事業は事務局が主体となり実施しました。

(4) 事務局のもとに部局（総務・会計、企画・広報、営業・渉外）を設けることを社員総会で議決しましたが実際には執行する機能を持たせることができませんでした。事務局を担うボランティアが圧倒的に不足しています。

(5) 大学や高校、個人の方をボランティアとして受入れ、活動に携わることによりフードバンク活動を知ってもらうことができました。

7 食品の安全管理

(1) 賞味期限内の提供を徹底しました。しかし、フードドライブ食品の寄贈の拡大に伴い、寄贈時に既に賞味期限切れの食品や、開封済み、対象外の食品（アルコール類、医薬品）も増えており、今後の課題です。

(2) 毎年、食品事故0をめざし、食品の品質管理や衛生管理を徹底しました。

冷凍・冷蔵食品の提供の際には必ず保冷バッグ等の使用を義務づけし、持参がない場合は保冷バッグを貸し出しました。

入出庫の際の帳票を見直し、企業からの寄贈食品については企業からのトレーサビリティの確認にすぐに対応できるよう変更しました。

想定されるあらゆるリスクを洗い出し、リスクが発生したときの影響と発生を抑止するための方策に影響度の大きさに従い、リスク防止策を実行していきます。

ただ、11月には提供した食品に腐敗があった旨報告を受け回収しました。原因の究明に努め再発防止のためにチェックの精度を向上させるために作業工程を改めました。

(3) 新たに食品品質管理基準、食品事故発生対応マニュアルを定めました。

8 情報発信と共有

- (1) 事業拡大に伴い、団体内の情報の共有についてはクラウドを活用し効率化を図りました。
- (2) ホームページは一部情報の陳腐化が見られたため修正を行いました。また次年度の新規ページの追加（主に寄贈元や会員の皆様の情報を掲載、また寄贈の手順に関してもより分かりやすくなるような改修）のための準備を行いました。
- (3) Facebook や Twitter に加えインスタグラムも活用し広報しました。
- (4) ニュースレターの発行が出来ませんでした。
- (5) メディア取材や出演
 - ・サガテレビ（取材・出演）
 - ・佐賀新聞（取材）
 - ・FM さが（出演）
 - ・NBC ラジオ（出演）

9 食品ロス削減啓発活動

- (1) 「フードドライブ」セットを企業・団体に貸し出し、市民参加型の食品ロス削減として家庭内の未利用食品を持ち寄る「フードドライブ」活動をすすめました。
貸出件数 32 件 （昨年度 16 件）
- (2) イベント等出展
 - ① フードドライブ in 日本青年会議所九州地区佐賀ブロック大会、パネラー参加
 - ② フードドライブ in 駅前不動産スタジアム（2 回）
 - ③ まなびいフェスタ 2023 （主催アバンセ）＊フードドライブ・パネル展示・ゲーム。
 - ④ 未来をひらく SDG s フェア （主催コープさが生活協同組合）＊パネル展示
 - ⑤ アバンセフードドライブ＊フードドライブ・パネル展示
 - ⑥ FM さが食品ロス削減キャラバン＊フードドライブ・パネル展示・ラジオ公開録音（モラージュ佐賀出演）
 - ⑦ 佐賀市地域づくり交流会 in メートプラザ （主催 佐賀市）＊パネル展示
 - ⑧ 食育推進交流会「佐賀県の食育、食品ロス削減を推進しよう」＊フードドライブ、パネル展示、パネラー参加
- (3) 講師派遣
 - ① 経済同友会勉強会
 - ② 佐賀法人会女性部会

- ③ 佐賀ロータリークラブ
- ④ 佐賀大学公開講座みんなの大学「フードバンクから見るコロナ禍と食支援」
- ⑤ JA さが佐城地区女性部役員会「フードドライブについて」
- ⑥ JA さが白石地区女性部研修会 「フードドライブの取り組みについて」
- ⑦ 佐賀県食育ネットワーク総会 活動報告
- ⑧ 佐賀市民生委員児童委員協議会会長会 「フードバンクについて」
- ⑨ 「結い」でつなぐ支えあいの輪 ～SOS が言える社会へ～（主催佐賀市男女共同参画ネットワーク）
- ⑩ 武雄市武内小学校 「食品ロスとフードバンク」
- ⑪ 佐賀大学経済学部社会課題演習「企業活動と法」
- ⑫ 労福協「フードバンク活動の成果と課題」
- ⑬ ゆめさが大学「フードバンク活動について」
- ⑭ ゆめさが大学地域活動相談会 フードバンク紹介
- ⑮ 佐賀市神野校区女性の会 「食品ロスについて」
- ⑯ 浄土真宗本願寺派佐賀教区「フードバンクについて」

10 関係機関との連携

- （１）支援を必要とする方々へ食品を届けていくために、団体への協力依頼を行いました。
特に乳幼児世帯への支援を行う子育て支援センターや社会福祉協議会には食品やミルク、紙おむつ等の提供を行いました。
- （２）今年度は休眠預金事業として寄贈拡大を目指しました。新たな企業や団体との連携食品の寄贈提案の段階で提供団体のニーズ調査を行いマッチングの精度の向上を図ることを課題として取り組みました。全国的にフードバンクへの食品寄贈減少の報道がありましたが、本事業もあり今年度も前年と変わらない量の寄贈を受けることが出来ました。
- （３）県や佐賀市の関係部署と意見交換を持ち、食品ロス削減のとりくみ、フードバンクの安定的な活動のための協力依頼を行いました。
- （４）食育ネットワークの加盟団体として参加し、情報提供を受けました。
スタッフ全員で食品ロス削減推進サポーター育成講座の受講、また食品ロス削減部会にもフードバンクさがとして参加しました。フードバンク活用の手引き作成に参画しました。
- （５）佐賀県食でつながるネットワーク協議会の発足に参画しました。また同会の研修会に参加しました。佐賀県と佐賀女子短期大学との連携に加え、県内の食支援団体との連携協力強化を目指して活動していきます。
- （６）大学や高校生のボランティアを受け入れしました。

- ①佐賀大学経済学部
- ②おおぞら高等学院
- ③致遠館高校

その他、個人でボランティアに参加する大学生、高校生の受け入れも行いました。

11 フードバンク間連携

(1) 全国フードバンク推進協議会との連携

- ① 協議会を窓口として、食品の寄贈を受けました。
- ② セミナーや事業説明会へ zoom で参加しました。
- ③ 関係省庁への政策提言のため、フードバンクさかの現状や課題を挙げていきました。
- ④ 休眠預金事業や厚生労働省の助成金の情報を活用し、検討及び申請を行い、助成事業の採択へとつながりました。

(2) 福岡県や長崎県のフードバンクとの連携をし、食品の融通を行いました。

また、フードバンク活動全般について、情報交流を行いました。

(3) 唐津市で新規にフードバンクが設立されました。(フードバンク唐津)

(4) 県内でもフードパントリーの開設を目指す団体と協力して開設支援事業を行っています。

12 コミュニティスペースとしての活用

フードバンク活動を広く市民に知ってもらうために、ホームページや Facebook で広報しました。また、コロナ禍が終息に向かいつつあることもあり、出向くかたちで地域コミュニティに参加しました。

一方で事務所(倉庫)についてはこどもを対象とした食支援団体が多く出入りする点での安全性と、寄贈品の保管にスペースがとられているためイベント会場としては活用できませんでした。ただ、提供日は食支援団体が多く集まっていること、企業・団体、行政から多くの方が訪れており食支援を通じて地域コミュニティの交流の場となっています。あわせて情報提供も行いました。